

長崎通信

1982年5月20日 № 62

長崎の証言の会発行

事務局 長崎市宝栄町 18-4

〒852

TEL (0958) 62-8725

◎ 原点は何か

国連軍縮特別総会のための首相演説草稿がまだまとまらないという報道を読んだとき、私は、何のためにこの総会が開かれるのか、日本からなぜ大勢の人がこの総会に出席するのか。その理由は核兵器が人間を最も残酷に扱い、地球上の人類の生存にかかわるからである。それが原点である。かつて原水禁運動が分裂した時、特定の国の核兵器は認めようという声を被爆者の素朴な反原発の感情・主張は受け入れなかった。今度もまた、同じようなことが別の立ち場の人々からあがっている。被爆者は、やはりこれを受け入れることはできない。人間の生命を守るという素朴な原点を私たちは忘れてはならない。

毎日、数紙の新聞切りぬきをして、その中から「核・平和」関連記事のなない日はほとんどない。月ごとにとまとめた切りぬき保存袋は、日本に、かつてない反核の潮流が高まりつつあることは疑いない。問われる変革の意志

国連へ向けての「三千万署名」運動は、いまや宗教界を含む国民各層の自発的連帯行動として広がっている。私も今回初めて自分の住む町内や職場で署名を訴える勇気が出て、多くの賛同を得た。しかし、それらすべてが今日の核情勢を変えるにふさわしい要求を盛り込んだ署名であるか、それとも核大国や政府の「現実主義」や「核均衡」論に追従するお題目だけの署名であるか、その内容と質が鋭く問われている。

文学者たちの反核署名をめぐる一部の批判的言動も、結局はひとりひとりの文学者としての独自の責任を問うたものであろう。しかし林京子さんらを先頭とする作家たちは、まさに文学者としての自己の責任においてそれらをのりこえた。私たちが草の根の市民もまた、単なる流行のファッション

今こそ核廃絶の意志と創意を

第二回 国連軍縮特別総会を前に

長崎の証言編集部 鎌田 信子

第二回 国連軍縮特別総会を前に

現在、広島での二十万の反核集会(3・1)について、東京でも三十数万の反核大行動(5・23)が企画されている。ヨーロッパでもロンドン(6・6)やボン(6・10)での大行動が計画され、アメリカでも「グラウンド・ゼロ」(爆心地)運動や自治体ごとの核廃絶決議などの草の根の反核運動が急速に広がっている。

そしてこれらはニューヨークでの国連軍縮特別総会に向けて、百万人を結集する国際大デモストレーション(6・12)へと未曾有の高揚を上げつつある。

この国連特別総会へ、日本から千数百人、長崎県下でも数十人の代表が参加を準備している。

NGO(非政府組織)を代表して山口仙二代表、本島等市長の演説も予定されており、ヒロシマとともに、ナガサキの声は一そう高く国連へ、世界へひびくはずである。しかし、レーガン政権の限定核

戦争構想や最近の日本政府の追従的姿勢を見れば、核軍縮への展望はまだ暗く、楽観は許されない。

そこで私たちに求められる緊急の課題は、三千万国民署名に要約される核廃絶への四つの要求の実現を国連と政府へ迫ること。ひとりひとりが家庭と職場、地域で、根気よく対話と署名を進め、草の根からの反核行動へ立ち上がる。こと。生まの声、歌で、文章で、絵で、ヒロシマ・ナガサキの実相を語り、反核を訴えることである。

未来への決定的な鍵を

五月二十日夜、長崎の証言の会へ世界へ「ナガサキは訴える」と題して、第二回目の平和市民講座をひらく。国連に出発する代表たち全員に、平和ゼミに結集する高校生たちより被爆瓦に託した平和のメッセージも手渡される。

ビキニデーの三月一日、第一回平和市民講座の日に長崎を出発した田中辰夫君(証言の会事務局)ら三人の若者も、広島を経て、一歩一歩東京をめざして行進をつづけている。田中君はさらにニューヨークへと歩みをすすめる。

草の根の意志と創意をいかに持続し鍛えるか、私たちは今や決定的な未来への鍵をにぎっている。

長崎・福岡 交流会を終えて

伊藤 普

(福岡被団協事務局長)

一月十五日の小浜での「草の根反核市民運動交流会」へは、お忙しい中を多数お出でいただき、有難うございました。あいにく風邪のため福岡の被爆者相談所事務局長、副所長が参加できず、当方からの活発な意見が少なかつたようです。だが福岡県は全県的に被爆者の組織が確立され、日本被団協の方針の下に分裂することなく民主的に運営されてきた伝統をもっている点で自負しています。

しかし、まだ運動の中心課題が援護法中心となり、核問題についての具体的な討議については不十分で、一般には勉強不足です。

今後はこの点に関する学習に力を注がないと、被爆者の組織を強化する上で問題になってきます。その意味で、今後の運動の進め方を慎重に検討し、全国三万人の証言者をつくるためにも、長崎の証言の会への加入について被団協の会員の皆さんに、積極的に呼びかけていきたいと思ひます。

証言の会の皆さんに宜しく。

核廃絶人類不戦の碑をオランダにも紹介したい

阿姆斯特ダム自由大学 図書館長 T・ステリングス

昨年十二月八日の外国人戦争犠牲者追悼碑とレネ・シエーファールの文章がのった文集「核廃絶人類不戦」を送ってください。心から感謝しています。平和公園の碑の写真を送っていただければ、私はオランダの雑誌にそれを掲載したいと思ひます。また、別便で昨年十一月二十一日の阿姆斯特ダムでの反核平和デモ行進の写真がのっている本を送ります。

◎ 会員の拡大を

私たちの会は市民団体としてどこからも補助を受けずに会費や本の売り上げ、カンパなどで運営しています。したがって、会員が少くないということは会の運営が行きづまることを意味します。これはただ経済面だけでなく、一人でも多く反核の輪を広げたいという願いがこめられています。この通信を説かれた方が一人でも多く会員になれば幸いです。

◎ 事務局日誌(2月~4月)

2月7日 核実験反対座り込み、一四〇回目 20日一四一回目

2月11日 運営委員会 第一回長崎平和市民講座の持ち方について(勤労福祉会館)

2月28日 核実験反対座り込み、一四二回目

2月28日 原水禁禁止長崎連絡会議 参加・広瀬(県評事事務局)

2月28日 国連軍縮特別総会出席者座談会(ながさき荘)

3月1日 第一回長崎平和市民講座(勤労福祉会館)

3月4日 平和・軍縮報道についての記者座談会(ながさき荘)

3月7日 「ヒロシマ・ナガサキの証言」編集会議(広瀬氏宅)

3月15日 米国原爆被爆者協会会長倉本寛司氏を囲む会(宝来軒)

3月28日 核実験反対座り込み、一四三回目

4月3日 第八回福田須磨子忌 4月25日 運営委員会 第二回長崎市民平和講座について(広瀬氏宅)

4月29日 核実験反対座り込み、一四四回目

5月13日 運営委員会 第二回長崎市民平和講座について(社会福祉センター)

5月16日 座り込み 一四五回目

5月20日 「長崎通信」62号発行 第二回平和市民講座(自治会館)

* 編集室 *

「ヒロシマ・ナガサキの証言」第二号がずいぶん遅れたこととお詫びします。最初の原稿を入れてから初稿までずいぶん時間がかかりました。長崎・東京間は遠いという感じです。

ひき続き第三号の発行準備にかかります。原稿を六月十日までに寄せてください。第三号の編集は広島担当です。

長崎県でも、県議会・市議会等が相ついで核軍縮への決議をし、長崎市教育委員会が平和教育担当の指導部長を置いたと報じられています。一人一人の弱い声が次第に大きくなりつつあることを感じます。この声は決して一部の者の声ではありません。軍縮特別総会が終わったあとも、私たちは引き続き声をあげていかなければなりません。夏が過ぎれば声が細くなるということがあるように、エネルギーを蓄えておく必要があります。

「人間が危ない核のはなし」服部学著・水曜社刊・八八〇円」という本が出ています。中学生が読んでわかるように書かれたもので核問題が実にわかりやすく整理されて読みやすい本です。むしろ少し理屈は苦手という人も思わず引き入れられます。

37年目の暑い夏がやってきます。体をおいしくください。(長崎)

57年5月8日 長崎新聞

国連参加者と交流

証言の会 20日に平和市民講座

57.5.8 長崎新聞

第2回長崎平和市民講座は、どんな人でも参加できる。

57年4月30日 長崎新聞

被爆がわらも展示

核実験抗議の座り込み

57.4.30 長崎新聞

座り込んでいる人は「見られる」方だが、同時に、祈念像の前に来る人たちを見ている。写真や 爆がわらをいっと見つめる人とは、ことばを交わさないのに、つながりを感ずる。

あゝ長崎の証言

白木 悟

あの日を忍ぶ 爪印あとも
淡れし長崎の丘に立ち
祈る瞳に 涙を誘
同胞よ 安らかに眠れよと
平和を願う我が胸に

(あゝ 証言の鐘がなる)
(あゝ 長崎の証言よ鳴りひびけ)

召されし愛子を 胸に抱き
跡追う母の影をば
今に詠史し あの日惨劇を
今日や 証人誰居るや
思ひし胸に平和を祈る

(あゝ 証言の鐘がなる)
(あゝ 長崎の証言よ鳴りひびけ)

六萬有余の 御霊よ何処
囚縛に眠りし丘に立ち
祈る心に マリアの鐘が
憂愁得るごとく鳴りひびく
永遠に誓ひし平和を願ひ

(あゝ 証言の鐘がなる)
(あゝ 長崎の証言よ鳴りひびけ)

★「核廃絶人類不戦」(七五〇円
送料とも千円)お申込は事務局
まで

ヒロシマから

吉岡 満子

軍備拡張 核兵器
それから人間は 何をするのか
かつて 国を守るという名の
戦争で
多くの若い生命が
捨てられていったのに

ヒロシマ・ナガサキでは
一つの原爆で 赤ん坊も子供も
町とともに焼かれてしまった
親を失い家を失い 飢えてさまよ
ったのも子供たちだ

核ミサイル 核実験
それで 人間の幸せを守るとい
うのなら それは 神をおそれぬ
人間のたかぶりで

私たちは 再び
戦争への武器を持つてはならない
持たせてはならない

若者が若者らしく
子供が子供らしく
人間が人間として
支え合って生きて行ける世である
ために
(広島県佐伯郡)

反核署名に取組んで

大村・賛助会員

土屋 隆司

さつきの咲く頃になりました。
大阪から大村へ出張してきました。
年二カ月、私の任期もいよいよ終
りです。二回にわたって送ってい
ただいた署名用紙、なんとか署名
してもらいました。しかし大方の
人びとは無関心というのが正直な
気持ちです。私の頼み方が悪いの
かも知れないが、一つ署名とるに
も少し勇気がいりますね。(事務
局注一 一回め10名、二回め33名、
計43名の署名が届けました)

しかし、平和を考えると何か
の作業をするということは非常に
有益だと感じます。四月十七日、
長崎で「世界の人へ」という在日
朝鮮人の被爆を扱った映画を観ま
した。日本人の加害者性(同時に
差別意識や構造)で被爆に居直る
日本という国が、被爆をタテ
に国際的に呼びかけても、今一つ
訴える力がよわいということをし
の映画をみて感じました。

あらゆる人びとの被爆者への救
助の視点なしには何も動かせない
のではないか、と思いました。
実生活において自分は何ができ

るかという心もなないですが。
大村で学習サークルを深したの
ですが、趣味のサークルはあって
も教育啓蒙のサークルはないよう
です。ほんとうは平和教育が一貫
して学習される場があってもいい
と思います。平和については日々
にうとしという感じが若い人に多
いんですね。……「平和」というこ
とはほんとうに難しいことです。
原爆被爆者の今後は、就職・結婚
差別の克服と、老後の医療の保障
をどう実現していくかだと思いま
す。

さらに日本人全体の福祉観や福
祉そのものを高めていく作業の中
で、平和への裏づけを深めてゆく
しかないように思います。福祉と
は人と人のぬぐもりと共育の中に
あると考えます。その前提に基本
的人権や核廃絶・軍縮(ほんとは
軍縮が望ましい)憲法第13条はそ
の意味ですばらしいことですが)

今、道は険しい。だんだん悪い
方向に進んでいるように思えてな
りません。しかし、西欧の核反対
運動に学んで、一步一步楽しみな
がら自分なりの平和運動をすすめ
るしかないように思います。
では、国連での訴えが少しでも
実り多からんことを祈ってペンを
おきます。
(大村市)

57年4月18日 長崎新聞 長崎の外国人戦争犠牲者 追悼文集を発行

57.4.18 長崎新聞

57年4月27日 毎日新聞 長崎の医師「反核」の声

「核戦争防止国際会議」の支部結成

57年.3月12日 長崎新聞 反核運動に名乗り

「危険な時」と旧軍関係者

57.4.27 毎日新聞

57.3.12 長崎新聞

福田須磨子の 原稿用紙

福島 康子

昭和二十一年二月十七日、私は北京から原爆に焼かれた長崎へ引き揚げてきた。母と兄嫁と姪の三人が被爆死していたが、逢う人ごとに家族や親族の爆死が語られ、街中が茫然としているように感じられた。やがて私は浦上の戦災住宅に住むようになり、毎日の食料を手に入れるのに苦労していた。ある日、須磨子と再会した。彼女も家を焼かれ、家族は爆死して、浜口町の電車線路脇にバラックを建てて住んでいた。

暑い日盛りに大きな包みを持ってきて「あずかっとてくれんへ」という。何かと見るとぎしり書きこんだ原稿用紙が高さ五十センチ約三千枚位あったのではなからうか。「そのうちに絶対出版するからね」というのを寝言をいっているのだと聞き流し片隅にはうり込んだ。

昭和二十五年、私は純心女子短大に行き、好きな勉強をし、中島万利神父様からお話をきくグループが出来た。須磨子を誘うと「うちは神父さんにはなめくじのごたつ気のすつとさ。後からピカピカ光るごたつけんね」という。

須磨子の詩「ひとりごと」が朝日新聞にのったのは昭和三十年のことと、その年の八月九日、平和公園に高さ九・八米、重さ三十トンの平和記念像が建設され、一人の人が参列して平和記念式典が行われた。被爆十周年忌であったが、平和記念像建設資金は五百万円が不足し、景品付で資金を集めていた。市民感情としては納得のゆかないものであったが、須磨子は、ずばりと「像は食べられませぬ」と書き出して大きな衝撃を与えた。私は江角ヤス先生から呼ばれて純心女子学園に勤めるようになったが、高校二年生の担任をしていた頃、須磨子がやって来て、バザーでぎんなん人形を売ってくれという。クラスの生徒に相談すると賛成してくれ、引きうけたが蛇師りの人形などで、大して売れなかったが喜んで帰っていった。須磨子がどうして暮らしているのか分らず手をさしのべる余裕も私にはなかった。

子姉さんも見えられ、私達同級生も何人か出席した。大分病気が進んで痛々しい状態だったが、私はかつて須磨子が「絶対出版すつけんね」といった言葉が成就したのを、この目で見た。

須磨子は、原爆病と反原爆に対する偏見と書くことへの執念と戦っていたのだ。

八月に入ると長崎のテレビは原爆特集になり、聖フランシスコ病院院長の秋月先生や須磨子が必ず登場する。相変わらず元気である、と私は安心していった。

田村俊子賞も受賞したが、四十九年四月二日、平和公園の桜が満開の日に逝った。翌年、山田かんさんが中心になって須磨子詩碑を建てて下さった。

五十六年二月、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世が殉教地・被爆地長崎を訪問された。反核は正しく市民権を獲得したのだ。

須磨子も一人の殉教者だったのではないだろうか。今年の八回忌には佐々木光子さんと県立高女時代の追悼歌を捧げることしよう。

反戦の詩碑に集えば風寒く白き桜はビラのごと散る。

須磨子忌 前田とし子
雨に散る桜吹雪やすま子詩碑
春寒の雨やすま子の詩碑囲む
春雨の傘さしかけて追悼歌
(長崎市)

追悼歌

作詩・作曲者不詳

咲く花は はかなく散れど
こん春は 又も咲きぬべし
もみじ葉は はかなく散れど
こん秋は 又もおうべし
みまかりし 人やもいずら
待てど 待てど ふたたび
かえらず
あわれ あわれ 我が師よ
我が友
いづち さして いにけむ

春も花 秋のもみじは
年ごとに 咲き匂うごとく
亡き人も かえりし来なば
常ならむ なげきはあらじな
みまかりし 人やもいずら
呼べと 呼べと 再び声なし
あわれ あわれ みたまよ
みたまよ
うけよ 今日のままつり

★長崎の証言の会の旗を作製し、
「はばたき」の地に故上野誠氏の版
画「はばたき」を中央に、平野妙
子さん筆による証言の会の文字を
費いずれも白ぬきで染めます。(事務局)